

### その-6 アジサイ栽培の用土と植え替えについて

アジサイの栽培を行う上で注意する一つにどのような用土を使うかということが上げられるでしょう。一つのヒントとして最近ホームセンターや園芸店で販売されている大型の色鮮やかな園芸種のアジサイは別としても鉢植えでヤマアジサイを楽しもうという方は山野に咲くヤマアジサイですから是非山野草の用土を参考にすればよいと思います。

具体的には関東地方であれば鹿沼土、関西、九州地方では日向土が挙げられるでしょう。これまでの経験からアジサイを含む多くの山野草に安全に使うことが出来ます。この鹿沼土を使う利点について箇条書きにしてみました。(以下、成美堂出版 君島正彬著 はじめての山野草 102種 2005年8月10日出版 222ページより抜粋、参考にしました)

#### <鹿沼土を使う利点>

##### ① 安価で手軽に入手しやすいこと。

どの園芸店でも取り扱っています。14リットル入り350円程度と比較的安価で最近は100円均一の店でも販売されています。硬質のものとやや柔らかいものがありますが、鉢栽培では硬質を使う必要はないと思います。粒度としては中粒をお勧めします。

##### ② 保水や水はけがよいこと。

鹿沼土に水をかけると素早く給水して、さらに水はけがよいことが分かります。

##### ③ 用土中に間隔(隙間)が多く空気の流れがよいこと。

鹿沼土の粒子がしっかりとすることで鉢の中でも空気が流れやすく、蒸れによる根腐れを起こしにくい。

##### ④ 崩れにくく根づまりしにくいこと。

③に関連して長い間鉢の中で粒度を保っているためにアジサイの根がつまりにくい。

##### ⑤ 肥料分の吸着量が適当で、赤玉土などより肥料負けすることが少ないとこと。

崩れにくいことが考えられます。過剰な肥料分は水で洗い流す。

##### ⑥ 病原菌やセンチュウなどの被害が少ないとこと。

山野草は病原菌に侵される場合がありますが、鹿沼土の単用(鹿沼土だけで栽培する)で問題なく栽培することが出来ます。

##### ⑦ 白色に近いので、夏に温度の上昇が少ないこと。

黒色に近いほど熱は吸収します。

##### ⑧ 色を見て乾湿を判断しやすく水やりのタイミングがはつきりと分かること。

鹿沼土が黄色から全体に白っぽくなったら水を欲しがっていると分かります。

##### ⑨ 株分けや挿し芽のポット移植の場合、根の周りが崩れやすく根離れしやすいので根を傷めず扱いやすいこと。

植え替え作業の効率が上がります。

以上が鹿沼土を使う利点といえるでしょう。ヤマアジサイの鉢栽培でも鹿沼土だけで栽培している人もみられます。いずれにしても鹿沼土はアジサイ用土の中心として間違いません。

ただし、欠点が無いわけではありません。例えば、土の性質として酸性度は弱酸性であるために青色系のアジサイは問題ありませんが、赤系のアジサイは土の配合や肥料などで調整の必要があります。また弱酸性ですから素手の作業ではやや肌が荒れ気味になりますので、肌の弱い方はゴム手袋は必要ですね。とにかく鹿沼土とは万能の用土だと理解できましたか。

## 1. 植え替えのサイクル

鉢栽培のアジサイは2年～3年に一回は土を替える作業（植え替え）が必要です。アジサイの成長と共に根は鉢の中で増え続けますから土は力ち力ちに固まって開花に影響を及ぼすようになります。普通、ヤマアジサイの場合は大型に成長する品種は別として殆どのヤマアジサイはこの2～3年に一回、春先か初夏に行うということを覚えて下さい。

## 2 用意するもの

### 2-1 用土 下に写真を載せてみました

- 鹿沼土 中粒を植え替えで使用します。 ○ 赤玉土 中粒を植え替えで使用します。  
右の硬質の小粒鹿沼土は挿し芽用に使います。



- 鉢底石 大粒の軽石で鉢の底に入れます。  
洗って、乾かし何度も使えます。



- ピートモス 青花用として使います。  
pH 無調整という表示を確認



- 腐葉土 赤色用には多く配合使用します。  
完熟してフルイ通したもの。生っぽいものは不可

- 軽石または富士砂  
中粒程度を使用します。



- その他 もみ殻くん炭  
保水性、抗菌効果が期待されます。



- 既に各用土などを配合しているもの  
も市販され、そのまま使えます。



最近は花、野菜用の用土として幾つか市販され価格も適当でとても便利になってきました。ヤマアジサイ用として使ってみた印象では、やや細かすぎて保水性が高いので、これに鹿沼土を半分以上混ぜて栽培してみましたが良好でした。

少し注意しなくてはならないことは配合用土と共に肥料分が多く含まれるためか、ヤマアジサイの用土として使うと、花が赤っぽくなり青花にはやや不向かも知れません。

この用土には約 10 種類が混合されています。(左の写真)

## 2-2 他の道具



植え替え作業では用土の他にこれといってありませんが、左の小型の熊手の様な根をほぐす道具は非常に便利です。

ハサミ、ピンセット、サイバシの様な大きな箸があるとこれも効率的です。

あと、用土を入れるタライは用意したいですね。



### 3 植え替え時期

アジサイは落葉樹ですから、秋11月から12月頃には葉を落とし冬の休眠期間に入ります。翌年3月頃から新芽が枝先に出てきますので、この前あたりの未だ根が動いていない頃が適期といえます。私は鉢数が多いために1月下旬頃から3月下旬あたりをアジサイの植え替え時期として行っています。当然、冬の寒さの中で行いますから寒さとの闘いになりますが…この時期ならば根を大分切っても大丈夫ですから、毎年頑張って行っています。

この他にヤマアジサイの場合は6月上旬の入梅前も植え替えが出来ます。しかし、この時期はすでにアジサイの葉が開いているために根を強く切ることは株にダメージを与えることになりますので、ポットや鉢からそつと抜いて一回り大きめの鉢やポットに入れ替える程度のイメージで植え替えるというよりは鉢の入れ替え程度と考える方が安全です。

繰り返しますが、春先の芽出し前は根を徹底的にほぐしたり、無駄な枝を切ったり出来ます。また6月頃は殆ど根をほぐさずそつと植え替える程度にしましょう。この時期の剪定は無駄な枝、枯れた枝だけです。間違っても、枝先のその年の花芽を切り落としてはいけません。念のため。

### 4 用土の配合比率

アジサイ、特にヤマアジサイ、エゾアジサイの場合は鹿沼土主体で配合すれば大丈夫です。具体的には咲く色によって配合を変えるとアジサイの咲き分けを楽しむことも出来ます。これといってこの品種はこの色で咲かさなくてはならないといった約束事はありませんから、私は配合は自由に変えてよいと思っています。

青色に咲くアジサイの場合は用土を弱酸性の状態に、赤やピンク、白色の場合は用土を弱アルカリ性に保てば赤味を強く咲かすことが出来ます。

ちなみに、日本の土はほとんどが弱酸性で自生のアジサイは青色に咲く品種が多いのですが、これをヨーロッパの炭酸カルシウム分の多い弱アルカリの土で栽培するとアルミニュミイオンの影響からピンクや赤に変化することはよく知られています。

註) 下の配合は容量%

青花用 ⇒	鹿沼土	50%	赤花、白花用⇒	鹿沼土	40%
	赤玉土	10%		赤玉土	30%
	軽石 中粒	10%		軽石 中粒	10%
	ピートモス	10%		もみ殻くん炭	10%
	もみ殻くん炭	10%		腐葉土	10%
	腐葉土	10%			



アジサイの品種によって土の配合を変えても花色が変化しないものもあります。白色は配合を変えてでも白色は白色のままで。また、用土に全く影響されない品種もあります。

青や紫色を赤系の配合土にすると赤紫色の中間色に咲くアジサイを見かけますが、鮮やかな綺麗さとはいえない色に咲く場合もあり、この辺は難しいところです。

経験から肥料過多や腐葉土を多く、ピートモスが少ない場合はどうしても赤っぽく咲く傾向にあります。

私は楽に栽培することも大切と思っていますので用土は鹿沼土を多く、上表の青花用一種類だけの配合用土で全て管理しています。

## 5. 植え替え方法



① 鉢から株を取り出す。  
箸で用土に突き刺し、硬い場合は  
限界です。ビニールポットの場合  
は横から押して判断します。



② サイ箸で縦に裂けめを。  
縦方向に深く裂けめを入れると、  
ほぐしやすくなります。用土を少し  
乾かし気味にすると効率的です。



③根気強く用土をかき取る。  
熊手型の道具やサイバシで黙々と用  
土を全て取り去ります。慣れれば楽し  
く…楽しくもないか…



④団子上の根は切り取る。  
用土を落としたら、密生している根  
や腐って黒っぽい根は思い切って  
切り取る。



⑤ 底網、鉢底石を入れる。  
鉢底石は厚さ 2cmまで入れ、ナメ  
クジ除けに銅線も入れておきます。



⑥鉢の縁から 15mm 程度の隙間  
大きすぎる鉢は根の成長に不向きで  
す。根は鉢の縁に沿って成長するので  
15~20mm の隙間がベスト



⑦ 肥料を入れる。  
油粕、緩効性肥料を使う。



⑧ 用土を入れる。  
ウォータースペースを残して、株元ま  
で用土を入れる。



⑨ハシで軽く突き固める。  
あまり強く固めることはありませ  
ん。軽く、固定する程度で充分。



⑩ 品種名ラベルを忘れずに

鉢植えアジサイの植え替え作業は1月から3月の寒い時期の作業になりますが、根のまわりの汚れた土や雑草、肥料カスなどを綺麗に取り去り、傷んだ根を整理することでその年、翌年の開花に大きな影響を与えます。また、根を切り戻すことで必要な鉢の大きさをそのまま維持することができます。(鉢を根の成長に合わせてどんどん大きくすることも出来ないでしょう…)  
頑張って作業しましょう。アジサイ栽培にとって植え替えは毎日の水やりと合わせて大切な作業です。